

# 後藤丹治博士著書並論文目録

## 第一著書

「戦記物語の研究」 筑波書店発行 昭和十一年一月

「太平記の研究」 河出書房発行 昭和十三年八月

「中世国文学研究」 磯部甲陽堂発行 昭和十八年五月

「改訂増補戦記物語の研究」 磯部甲陽堂発行 昭和十九年二月

## 第二論文

○ 論文は通俗的で、学術上の意味のないものや、他の人の著書に対する書評の類は省略した。雑誌に発表して後、前掲の著書に収載したものは○印を附けた。論文の内容の一部分を前掲の著書に収めたものには△印を附けて、これを区別した。

○「平家物語著述の資料に就きて」

(芸文第十四年 第四、五、六号) 大正十二年四月、五月、六月

○「鴨長明伊勢記考」

(芸文第十四年 第十一、十二号) 大正十二年十一月、十二月

○「方丈記管見」

(芸文第十五号) 大正十三年五月、六月

○「茂範卿の唐鏡に就いて」

(芸文第十五号 第九号) 大正十三年九月

○「長門本平家と盛衰記との関係」 (芸文第十五号 第十二号) 大正十三年十二月

「諸書に引かれたる平家物語につきて」

○「禅中記の研究」 (芸文第十六号 第一号) 大正十四年一月

○「慈心坊の説話と冥途蘇生記」 (芸文第十六号 第六号) 大正十四年六月

○「屋島合戦縁起に就いて」 (芸文第十六号 第七号) 大正十四年七月

○「東関紀行私見」 (芸文第十六号 第十号) 大正十四年十月

○「日蓮の遺文其他より観たる平家物語」 (芸文第十六号 第十一、十二号) 大正十四年十一月、十二月

○「私が最近に見た秋津嶋物語」 (芸文第十七号 第一号) 大正十五年一月

○「平家物語の註釈及び研究」 (国語と国文学 第三卷第十号) 大正十五年六月

○「海道記の証本と其の成立」 (国語国文の研究 第四、五号) 大正十五年十月

○「創始時代の平家琵琶と覚」 (検校) 昭和二年一、二月

○「登山状と雑談集」 (東方仏教 第三卷第四号) 昭和二年三月

○「歴史地理第三号 十九卷第三号」 昭和二年四月

○「東方仏教第三号 卷第四号」 昭和二年四月

○「初期の平曲に関する研究」

(国語と国文学 第四卷第九号)

昭和二年九月

○「朗詠百首に就いて」

(国語国文の研究 第十三号)

昭和二年十月

○「宴曲に関する二三の考察」

(国語と国文学 第四卷第十一号)

昭和二年十一月

○「新たに知られた小野篁日記」

(国語と国文学 第五卷第十二号)

昭和二年十二月

○「異本堤中納言と小夜ころも」

(国語と国文学 第五卷第五号)

昭和三年五月

○「延年舞歌詞その他」

(書物の趣味 第二册)

昭和三年五月

△「平家物語難語考」

(国語国文の研究 第二十一、二十八、二十九号)

昭和三年六月、四年一、二月

○「藤葉和歌集と小倉実教」

(国語国文の研究 第二十三号)

昭和三年八月

○「方丈記研究」

(新潮社発行 日本文学講座)

昭和三年九月

○「方丈記新説」

(国史と国文 第五卷第五、六号)

昭和三年十一月、十二月

△「平家物語出典の研究」

(国語と国文学 第六卷第二、三、五号)

昭和四年二、三、五月

○「馬琴の八犬士と個性描写」

(芸文 第二十年 第七号)

昭和四年七月

○「若衆や女房を教訓した宗祇の歌」

(国語国文の研究 第三十六号)

昭和四年九月

○「源氏一品経と源氏表白」

(国語国文の研究 第四十八号)

昭和五年九月

○「阿足院本平家物語」

(書物の趣味 第六册)

昭和五年十二月

○「平家花揃といふ書に就きて」

(国語と国文学 第十卷第四号)

昭和八年四月

△「小堀氏の駁説を読みつゝ再び源氏供養表白を論ず」

(言語と文学 第五輯)

昭和六年一月

○「平家物語の典拠ある語句につきて」

(国語と国文学 第八卷第七号)

昭和六年七月

○「平家物語の研究についで」

(月刊日本文学 第二号)

昭和六年六月

○「建久御巡礼記を論じて宇治拾遺の著述年代に及ぶ」

(月刊日本文学 秋季臨時号)

昭和六年九月

○「馬琴の読本と太平記」

(岩波講座 日本文学附録)

昭和六年九月

○「日本文学書目解説室町時代」

(月刊日本文学 第二卷第一号)

昭和六年十二月

○「平家物語序説」

(岩波講座 日本文学 第十回配本)

昭和七年三月

○「平家物語の作者及び作成年代と定説の再吟味」

(皇学 第一卷 第一、二号)

昭和七年十一月、八年三月

○「野呂匡氏の海道記と藤原秀能といふ文を読みつゝ」

(国語国文 第二十二号)

昭和七年十二月

○「清少納言息女考」

(歴史と国文学 第八卷第二号)

昭和八年二月

○「曾我物語に於ける史実の検討」

(国語国文 第三卷第二号)

昭和八年二月

○「雑考四則」

(文学 創刊号)

昭和八年四月

○「岩清水物語は果して宝治文永年間の作か」

(文学第一卷第七号) 昭和八年十月

○「近古小説と太平記」

(国語と国文学第十卷第十一号) 昭和八年十一月

○「児物語の研究」

(仏教文化大講座第一回配本) 昭和八年十二月

「枕草子」「小白河」の再検討」

(文学第二卷第一号) 昭和九年一月

「十二段草子と平家物語」

(文学第二卷第二号) 昭和九年二月

「鎌倉時代の仏教文学」

(日本精神文化第一卷第三号) 昭和九年四月

○「近古小説の二三について」

(国語と国文学第十一卷第五号) 昭和九年五月

「平家を典拠とせる果林子の語句に就いて」

(国語国文第四卷第八号) 昭和九年八月

○「平家物語の宇治川先陣の説話は果して作者の創作か」

(国語と国文学第十一卷第十一号) 昭和九年十一月

○「方丈記の研究」

(改造社発行日本文学講座第五卷) 昭和九年十一月

「蛇性の姪の成立と源氏物語」

(京都帝大国文学会廿五周年記念論文集) 昭和九年十一月

「雨月物語に及ぼせる源氏物語の影響」

(国語国文第四卷第十二号) 昭和九年十二月

○「平家物語灌頂卷成立の諸問題」

(皇学第二卷第二号) 昭和九年十二月

「雨月物語より本朝醉菩提へ」

(四号) 昭和九年十二月

「京伝の読本二種と雨月物語」

(宝雲第十一号) 昭和十年一月

△「薄雪物語の成立と高野博士説の再吟味」

(文学第三卷第六号) 昭和十年六月

「遊仙窟に就いて吉田氏へ」

(立命館文学第二卷第十一号) 昭和十年十一月

「笹淵氏の宇津保物語に関する論考を讀みて」

(文学第三卷第十二号) 昭和十年十二月

「四人比丘尼の成立と原拠」

(文学第四卷第三号) 昭和十一年一月

○「太平記の一研究」

(国語と国文学第十三卷第四号) 昭和十一年四月

「雨月物語雑考」

(国文学解釈と鑑賞第一卷第二号) 昭和十一年七月

「算物語新考」

(国語国文第六卷第十号) 昭和十一年十月

「遊仙窟・新楽府・仏祖三経」

(国語国文第七卷第三号) 昭和十二年三月

「太平記概説」

(国文学解釈と鑑賞第二卷第三号) 昭和十二年三月

○「弓張月の白峯について」

(国文学解釈と鑑賞第二卷第五号) 昭和十二年五月

△「馬琴の読本石言遺響について」

(図書館雜誌第三十一年第七号) 昭和十二年七月

「吉野の哀史——太平記について」

(むらさき第四卷第十一号) 昭和十二年十一月

「馬琴雑俎」

(日本古書通信第九十号) 昭和十二年十一月

「太平記と武士道精神」

(国文学解釈と鑑賞 第二卷第十二号)

昭和十二年十二月

○「お伽草子と後代文学」

(国文学解釈と鑑賞 第三卷第三号)

昭和十三年三月

「日蓮聖人御遺文と平家物語」

立正史学 第十号

昭和十三年三月

「読本三種考証」桜姫全伝、月水奇縁、阿古義物語一」

(国語国文 第八卷第四号)

昭和十三年四月

「室町時代文学の研究について」

(古典研究 第三卷第六号)

昭和十三年五月

「雨月物語管見」

(国漢 第四十九号)

昭和十三年七月

「木石余譚考証」

(日本文化 第十卷第五号)

昭和十四年四月

「読本考証統説」

(国語国文 第九卷第五号)

昭和十四年五月

「太平記原拠新考」

(富山房発行本邦史学史論叢上巻所収)

昭和十四年五月

「平家物語成立考」

(史学雑誌 第五十編第六号)

昭和十四年六月

○「六代勝事記を論じて承久記の作成問題に及ぶ」

(文学 第七卷第七号)

昭和十四年七月

「平家物語文章私見」

(安藤教授還曆祝賀記念論文集 歴史と国文学 第二十二卷第五号)

昭和十五年五月

「再び室町時代文学の研究について」

(古典研究 第五卷第十二号)

昭和十五年十月

○「曾我物語に關聯して」

(古典研究 第五卷第十三号)

昭和十五年十一月

「平家物語著述年代考」

(史学雑誌 第五十二編 第十、十一、十二号)

昭和十六年十月、十一月、十二月

「馬琴の読本と雨月物語」

(立命館大学論叢 第四輯)

昭和十七年三月

「京伝其他の作家の読本と雨月物語」

(立命館大学論叢 第八輯)

昭和十七年七月

「五雜俎と雨月物語」

(歴史日本 第一卷第六号)

昭和十七年十二月

「垣根草の頼晴宗の話とその展開」

(立命館大学論叢 第十五輯)

昭和十八年八月

「高倉院升遐記について」

(日本諸学研究報告 第二十篇 国語と国文学の態度)

昭和十八年九月

「古典文学の註釈的研究への三つの態度」

(立命館大学論叢 第六十一号)

昭和二十二年七月

「雨月物語と本朝神社考との關係」

(立命館大学論叢 第六十四号)

昭和二十三年三月

「雨月物語札記」

(民族短歌 第七十三号)

昭和二十三年六月

「雨月物語察記」

(国文研究 第一輯)

昭和二十三年六月

「范張雞黍の故事と日本文学」

(立命館大学論叢 第六十五号)

昭和二十三年六月

「読書雑誌一六代勝事記と石清水文書」

(国語国文 第七卷第四号)

昭和二十三年七月

「雨月物語青頭巾の二典拠」

(国語国文 第七卷第七号)

昭和二十三年十月

「滝口入道統説」 (洛味復刊) 第三集 昭和二十五年四月

「読書雑誌―遊京漫録と馬琴」 (国語国文第十) 九卷第二号 昭和二十五年十月

「京伝の読本二種と兩月物語との関係」 (立命館創立五十周年記念論文集文学篇) 説林第三卷 第一号 昭和二十五年十月

「三國妖婦伝について」 (国文学論叢) 第三輯 昭和二十六年五月

「京伝の読本安積沼と兩月物語との関係」 (国文学論叢) 第三輯 昭和二十六年五月

「河海抄所引枕草子に關聯して」 (平安文学研究) 第六輯 昭和二十六年七月

「万葉集と兩月物語」 (立命館文学) 第八十三号 昭和二十七年四月

「夢応の鯉魚の原拠」 (国語国文第二) 十一卷第九号 昭和二十七年十一月

「中国の典籍と兩月物語」 (国語国文第二) 十一卷第十一号 昭和二十七年十一月

「秋成の旧作と兩月物語―世間猿、妾気質の再現―」 (国文学第九号) 昭和二十八年一月

「兩月物語研究」 (文学、哲学、史学、史学会連合) (会発行研究論文抄録誌3) 昭和二十八年三月

「剪燈新話と兩月物語との関係」 (立命館大学人文科学研究所紀要第一号) 昭和二十八年五月

「兩月物語の成立と剪燈新話」 (国語国文第二) 十二卷第七号 昭和二十八年七月

「蛇性の姪の成立と源氏物語」 昭和二十八年七月

「兩月物語典拠新考―中世の作品三種について―」 (立命館文学) 第一百四号 昭和二十九年一月

「横 笛」 (論究日本文学) 創刊号 昭和二十九年七月

「平家物語の女性」 (所取) 物語の女性 昭和二十九年九月

「滝口入道雑俎」 (洛味) 第六十四集 昭和二十九年十月

「兩月物語と伊勢、今昔との関係」 (国文学論叢) 第五輯 昭和三十年十一月

「兩月物語白峯の諸典拠―保元物語から白峯寺縁起まで―」 (立命館文学) 第一三〇号 昭和三十一年三月

「英繁二書と兩月物語との関係」 (国語国文第三) 十五卷第三号 昭和三十一年三月

「註釈―弓張月の註釈に關聯して―」 (平安文学研究) 第十九輯 昭和三十一年十月

「平家物語の参考文獻」 (角川書店發行古典鑑賞講座第十一卷) 昭和三十一年六月